



伏古川からみる五稜会病院。秋空に突き抜けるようにクレーンが伸びています。多目的ホールを含めた第二期工事が急ピッチで進められています。年内には完成です。

平成27年前半の五稜会病院

平成27年も3分の2が過ぎました。今年の夏は蒸し暑い日が続きましたが、新しい外来、病棟（既存の病棟も含めて）ではクーラーもきいていて快適な環境で過ごせました。診療内容につきましては、外来者数、月別の入院者数はほぼ例年通りです。精神科医療は時代とともに変わってきています。かねてより、厚労省から精神科病床の削減の施策が進められようとしています。当院では、既に精神科病床の機能分化を推し進めており、多職種による長期入院者の退院支援など患者さんの社会復帰に力を入れております。第二期工事は順調に進んでいます。年内には、多目的ホールや駐車場が整備されます。今まで、仮設の駐車場が遠くてご不便をお掛けしておりましたが、解消されます。多目的ホールでは、フットサルなどもできる予定です。

医療法人社団五稜会病院理事長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

当院の研究発表については病院のホームページにも掲載しておりますのでご覧下さい。常に最新の医療を提供出来るように、日々努力しております。

秋は学会・研究会のシーズンです。当院でも9月の院内学会をはじめ、様々な学会にエントリーしています。

第13回院内学会 平成27年9月8日

特別講演 「五稜会病院～社会とのつながり～とこれからの精神科医療」 理事長：中島公博
多職種から多数の演題を発表します。
他の学会・研究会で発表した内容を院内のスタッフと共有することが目的です。

第57回全日本病院学会 in北海道 平成27年9月12日

「てんかん疑いで終夜睡眠ポリグラフィ(PSG)を施行したところナルコレプシーが判明した思春期女性例」 小田由美
「精神科外来の看護カンセリングにおける家族支援の実際～家族介入のケースを通じての一考察～」 榎山るみ

第4回日本精神科医学会(沖縄) 平成27年10月8、9日

「暴力アセスメント導入の現状と今後の課題」 藪内裕介
「精神科での経験を持たずに精神科急性期病棟へ配属となった看護師の思い～精神科を希望し入職した中堅看護師への支援のために～」 後藤小百里
「当院における医療保護入院者退院支援委員会の現状と課題」 吉村美香

第79回日本心理学会(名古屋) 平成27年9月22日

「精神科患者における WAIS - III 全検査 IQ と推定 IQ の比較検討」 春名大輔

平成27年度日本精神科医学会通信教育分科会

第47回基礎コース・スクリーニング(看護部門)
平成27年10月2日 五稜会病院

精神科病院は閉鎖的とみられがちですが、五稜会病院では、情報の開示を積極的に進め、医療内容の透明化を図っております。医療技術向上のため、当院での治療の実践内容について、院外での学会・研究会でも発表しています。その際には、患者さんの個人情報保護の対応規定に従っています。精神科医療のレベルアップのために、病院理念の一つである「臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める」を実践しています。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン(他の医師の意見を聴くこと)を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

病院トピックス

札幌市こどものこころコンシェルジュ事業

札幌市では、児童精神科医療を中心とした医療、福祉、保健、教育機関の連携体制の構築を図り、心に悩みを抱える子どもや発達障がい児が、より適切な支援を速やかに受けられる環境を整備するため、「さっぽろ子どもの心の診療ネットワーク事業」を行うことになりました。平成27年9月、五稜会病院は、同事業の中核事業である「さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業」の実施事業者に選定されました。

この「さっぽろ子どものこころのコンシェルジュ事業」は、札幌市子ども心身医療センター(旧札幌市児童心療センター)及び札幌市が委託した市内5か所程度の医療機関が、札幌市が示す方法等により、児童精神科医療が必要な方、あるいは、児童精神科医療による治療後に福祉機関等の支援が必要な方への「案内」(コンシェルジュ)を行いながら、具体的なネットワークの構築及び拡充を目指す事業です。当院では、ストレスケア・思春期病棟があり、思春期の入院患者さんや、外来では中学生の不登校、発達障害の患者さんも多いので、札幌市内や近郊の児童精神科医療に少しでも貢献出来れば良いかと思っております。(因みに当院では中学生以降が治療の対象です。)

最近の精神科医療政策のご紹介

マイナンバー制度



マイナンバーは、住民票を有する全ての方に1人1つの番号を付して、社会保障、税、災害対策の分野で効率的に情報を管理し、複数の機関に存在する個人の情報が同一人の情報であることを確認するために活用されるものです。マイナンバーは、行政を効率化し、国民の利便性を高め、公平かつ公正な社会を実現する社会基盤であるとのことです。

平成27年10月から、住民票を有する国民の皆様一人一人に12桁のマイナンバー(個人番号)が通知されます。通知は、市区町村から、原則、住民票に登録されている住所あてに「通知カード」が送られます。番号は一生変更されません。

国の行政機関や地方公共団体などにおいて、マイナンバーは、社会保障、税、災害対策の分野で利用されることとなります。このため、年金・雇用保険・医療保険の申請、生活保護・児童手当その他福祉の給付、確定申告など税の手続きなどで、申請書等にマイナンバーの記載を求められることとなります。

当院は患者さん本位の医療を提供しようと

考えております。

お気づきの点をご相談下さい。

治療のご協力をお願い

現在、当院では「うつ病」、「双極性感情障害」、「統合失調症」、「アルコール依存症」に対する薬剤の臨床試験を行っています。創薬(薬を創り出す)は国家戦略の一部です。臨床試験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。

難治性うつ病

色々な抗うつ剤を使用してもなかなかうつ状態が改善しないこともあります。当院では一般的な抗うつ剤でも効果不十分なうつ病の患者さんへの治療を実施中です。

統合失調症

典型的な症状は幻聴と妄想です。最近では主治医から病名の告知もなされています。かつてのような不治の病ではありません。適切な薬物療法が必須です。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数	193床		
急性期病棟	48床		
ストレスケア・思春期病棟	48床		
療養病棟A	49床		
療養病棟B	48床		
従業員数	約200名		
医師数	常勤 7名	非常勤 8名	
看護師	84名		
薬剤師	2.5名		
臨床検査技師	2名	非常勤 2名	
臨床心理士	8名	非常勤 4名	
作業療法士	8名	音楽療法士 1名	
精神保健福祉士	10名		

五稜会病院沿革

開設 昭和47年
医療法人開設 平成2年

編集後記

平成27年もあと4ヶ月になろうとしています。二期工事も滞りなく進捗しています。年内には完成の運びとなります。駐車場が完備されれば随分と楽になります。秋は、食欲・運動には最適。でも、健康に留意して無理なく行きましょう。

発行：平成27年8月25日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 藪内裕介・菅原智子

電話：011-771-5660

http://www.goryokai.com

mail：GMC@goryokai.com

「なの花広場」が完成しました。

この度、病院向かいに素敵な広場が完成しました。この広場は、なの花薬局さんと所有者の方のご厚意で、薬局や病院に来る、地域住民の方々の憩いの場をご提供できるようにと建設して下さったスペースです。広場の中央には、大型の東屋があり同時に20名ほどの方が座れるベンチを設けられています。誰もがくつろげるような空間となっております。今後は、奥の方にある樹木の整備を行い、自然を残したかたちでのハーブガーデンと農園を作っていきたくと考えております。観て、触れて、匂いを感じれる様な楽しい空間を目指します。ベンチ前の花壇には、春夏秋冬と四季折々の花をご覧いただけるように致します。どうぞ一度、お立ち寄り下さい。また、五稜会病院送迎バスの乗降場所と車いす用の駐車場として使用させて頂くことになりましたので、病院二期工事終了後は、送迎乗降場所となりますので、宜しくお願い致します。（総務 森田課長）



病院を一望できるところにあります



まわりの木々が四季を教えてくれる
リラックスできる空間です

五稜会病院の防火管理

当院は昭和47年に伏古川添えに開院し、平成15年10月に思春期ストレス病棟を開設、平成26年5月には新しい病院になり「人に優しい病院」創りに日々努力しています。今回は、防火管理についてご紹介致します。

平成27年7月29日（水）消防計画に基づき、夜間を想定した自衛消防隊の避難訓練を、職員11名、患者さん95名が参加して火災現場確認、初期消火、通報、避難誘導と患者さんを労りながら基準時間内に無事に終了することができました。また、消火設備及び救助袋等の取扱要領等の教育を行いました。消防法に基づき行う年2回の避難訓練は、他の病院と異なり全病棟の患者さんと指定職員とが一緒に避難訓練をして防火意識の再確認をしています。

職員は日常業務に追われ防火意識を維持するのは難しいと思われるため、当直勤務する職員が等しく火災対処、避難誘導について一定のレベルの知識を持って、万が一に備え適切に対処できるように機会ある毎に各病棟で消防設備の取扱教育を行っています。また、「職員緊急連絡招集表」（災害の程度により1次、2次、全員招集まであります。）に基づき、電話による職員緊急夜間電話伝達訓練を年1回行い、最後の職員まで正確に伝わったかを検証しています。

人命を預かる病院の防火管理は、法律の規制や病院の形態等を総合的に考慮して都度、再構築が不可欠と思います。また、防火対策はこれで良いということは無く日々の創意工夫した実効性のある対策を行い「患者さんの生命を守る」ことを第一に考え、病院の信頼を保ち続けることが防火管理者の重責と思っています。

まずは、私たち職員が「火災は絶対起こさない、起こさせない」という強い意識を持ち、患者さんが安心して治療を受けて頂けるように防火管理を職員一丸となって行っていきたくと思います。（防火管理者 菅野）



札幌CBT & EAPセンター
健康に働くための
HiNT!
ヒント

ストレスチェック制度のねらい

「札幌CBT & EAPセンターでは 制度導入・実施をお手伝いします」

労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度の開始が近づいてきました。従業員50名以上の職場は今年12月から毎年1回はストレスチェックを実施する義務があります。

「ストレスチェック」という言葉からは「ストレスについて検査をする」ことを連想されると思います。実は検査はストレスチェック制度の前半部分にすぎません。後半部分では検査で高いストレス状態と判定された従業員に医師の面接指導を受けるように勧め、ストレス緩和を促し、また職場環境を改善し、職場ストレスの軽減をはかることとなります。つまり、ストレスチェック+予防改善の取り組み=ストレスチェック制度です。

ストレスチェック制度は定期健診の一部のように見えますが、「労働者個人が特定されず、職場ごとのストレス状況を事業者が把握し、職場環境の改善を図る仕組み」（国会の附帯決議より）作りを意図したものです。職場で環境改善の取り組みをすすめることでストレスを減らし、労働者の健康を保つことで生産性を向上させ、職場の負担する医療関連コストを減少させ、企業業績向上、経済活性をねらう成長戦略の一部です。病気や問題の早期発見や治療ではなく労働者と企業のパワーアップという目的も、実施方法や記録の保管方法、その後の対応方法といった運用制度も、定期健診とは全く別のもです。

本来意図した職場の集団分析と環境改善の実施が努力義務にとどまっていることに矛盾はありますし、職場内で新たに運用体制を作る負担も小さくありません。しかし、ねらいは理解できます。実際にこの制度が、労働者と職場が負担する実施コスト以上のリターン（利益）を手に入れられるよう各職場で運用されることを期待し、またそれを積極的にサポートしていきたくと思います。（札幌CBT&EAPセンター 中村）

札幌CBT & EAPセンター

精神看護専門看護師についてを CNS 鈴木大輔氏に聞いてみました。

平成25年に精神看護専門看護師(以下CNS)資格を取得し、現在活動しています。

CNSには① 専門看護分野において、個人・家族または集団に対して卓越した看護を実践する。② 専門看護分野において、看護職者を含むケア提供者に対しコンサルテーションを行う。③ 専門看護分野において、必要なケアが円滑に行われるために、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行う。④ 専門看護分野において、看護職者に対しケアを向上させるため教育的役割を果たす。⑤ 専門看護分野において、専門知識・技術の向上、開発をはかるために実践の場における研究活動を行う。⑥ 専門看護分野において人権を守るための倫理調整を行う。以上6つの役割があるとされています。

対象となる方々のニーズに応えるべく、各部署を横断的に活動しており、当院での医療と精神科医療のよりよい発展に少しでも貢献できるように日々活動しております。（CNS 鈴木）



CNS 鈴木 大輔